

平成22年産大豆、小豆、いんげん及びらっかせい(乾燥子実)の収穫量

- 大豆の収穫量は、前年産に比べて3%減少 -

【調査結果の概要】

1 大豆

全国の大豆の収穫量は22万2,800 tで、前年産に比べて7,100 t (3%) 減少した。

これは、10 a 当たり収量が前年産を上回ったものの、作付面積が前年産に比べて減少したためである。

2 小豆

全国の小豆の収穫量は5万4,900 tで、前年産に比べて2,100 t (4%) 増加した。

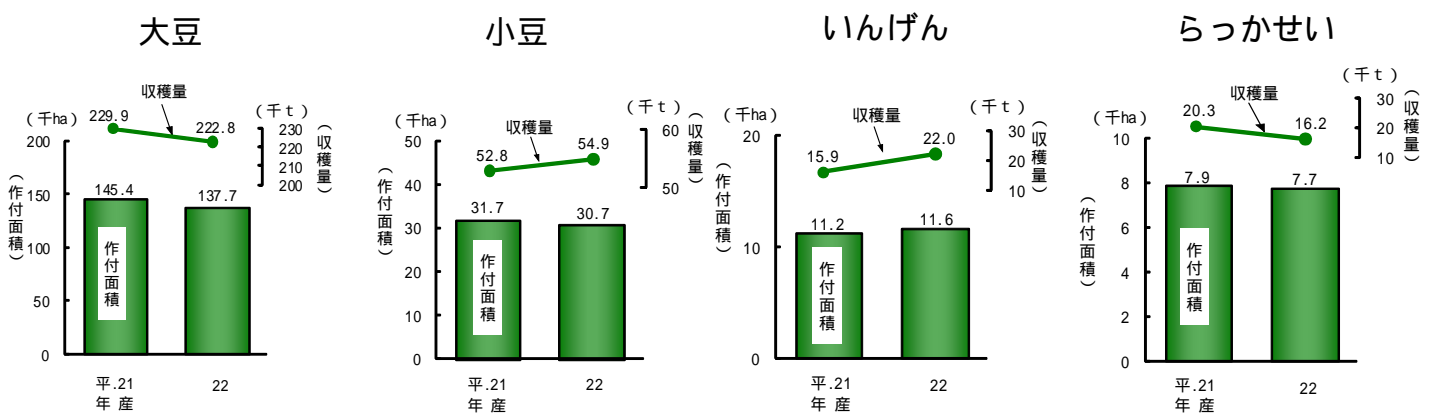
これは、作付面積が前年産に比べて減少したものの、主産地の北海道等において10 a 当たり収量が前年産を上回ったためである。

3 いんげん及びらっかせい

全国のいんげんの収穫量は2万2,000 tで、前年産に比べて6,100 t (38%) 増加した。

全国のらっかせいの収穫量は1万6,200 tで、前年産に比べて4,100 t (20%) 減少した。

図1 大豆、小豆、いんげん及びらっかせいの作付面積及び収穫量の前年比較



注：1 大豆の作付面積については、平成22年10月22日に公表した「平成22年産大豆の作付面積(乾燥子実)」、小豆、いんげん及びらっかせいの作付面積については、平成22年9月21日に公表した「平成22年産小豆、いんげん及びらっかせいの作付面積(乾燥子実)」の結果から再掲した。

2 小豆、いんげん及びらっかせいについては、主産県を対象に調査を実施しており、全国の収穫量は主産県の調査結果から推計したものである。

この統計調査結果で使用している統計表は、政府統計の総合窓口(e-Stat)の「統計データ新着情報」でご覧になれます。

【 <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do> 】

【関連するデータ、情報】

調査結果の利活用

- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における生産数量目標の策定及び目標達成に向けた生産指導・達成状況検証のための資料
- ・ 「畑作物共済事業」における共済基準収量算定及び農業共済組合連合会当初評価高の審査・認定のための資料
- ・ 小豆、いんげん及びらっかせいの関税割当数量の算定のための資料

関連データ

1 累年統計表

(1) 大豆

(2) 小豆

区分	作付面積	10a当たり 収	収 穫 量	作付面積	10a当たり 収	収 穫 量
	ha	kg	t	ha	kg	t
平成18年産	142 100	161	229 200	32 200	198	63 900
19	138 300	164	226 700	32 700	201	65 600
20	147 100	178	261 700	32 100	216	69 300
21	145 400	158	229 900	31 700	167	52 800
22(概数)	137 700	162	222 800	30 700	179	54 900

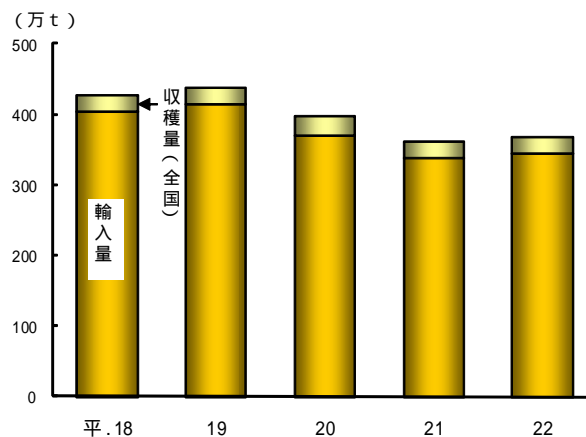
資料：農林水産省統計部『作物統計』

(3) いんげん

(4) らっかせい

区分	作付面積	10a当たり 収	収 穫 量	作付面積	10a当たり 収	収 穫 量
	ha	kg	t	ha	kg	t
平成18年産	10 000	191	19 100	8 600	233	20 000
19	10 400	211	21 900	8 310	226	18 800
20	10 900	225	24 500	8 070	240	19 400
21	11 200	142	15 900	7 870	258	20 300
22(概数)	11 600	190	22 000	7 720	210	16 200

2 大豆の収穫量と輸入量の推移



資料：財務省『貿易統計』、農林水産省統計部『作物統計』

【調査結果】

1 大豆（統計表 P 8 参照）

(1) 作付面積

大豆の作付面積は13万7,700haで、前年産に比べて7,700ha(5 %)減少した。

(2) 10 a 当たり収量

大豆の10 a 当たり収量は162kgで、前年産に比べて3 %上回った。

これは、北海道、東海等において前年産を上回ったためである。

(3) 収穫量

大豆の収穫量は22万2,800 t で、前年産に比べて7,100 t (3 %) 減少した。

これは、10 a 当たり収量が前年産を上回ったものの、作付面積が前年産に比べて減少したためである。

図2 大豆の作付面積及び収穫量の推移

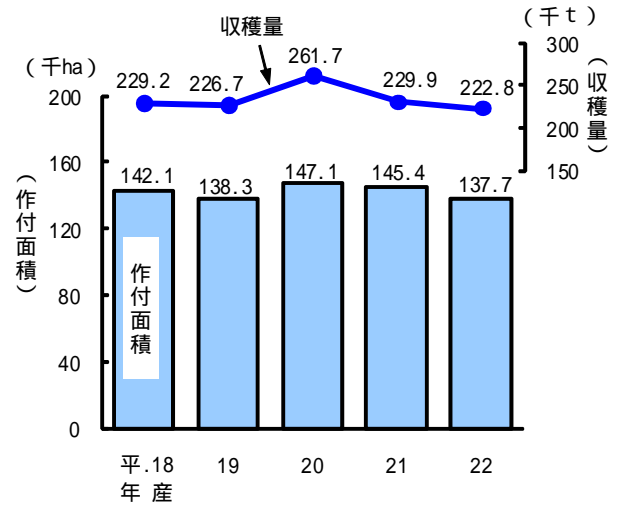


図3 大豆の都道府県別収穫量割合

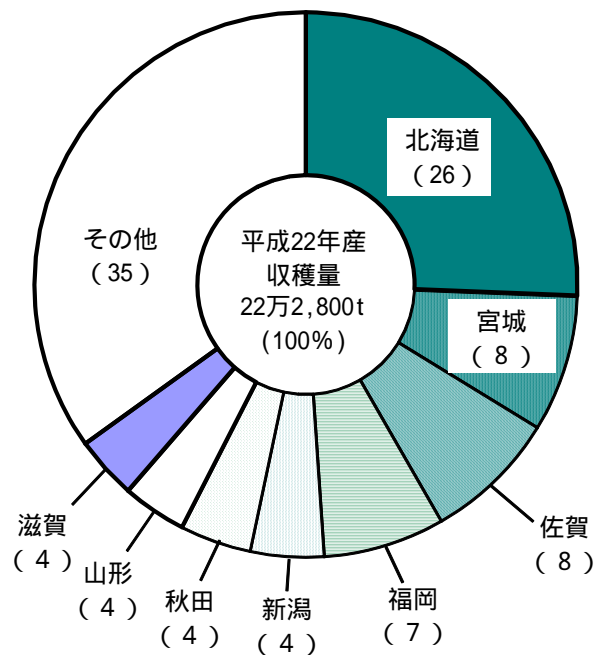


表1 平成22年産大豆の作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10 a 当たり収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10 a 当たり収量		収穫量		10 a 当たり平均収量対比	10 a 当たり平均収量
				対差	対比	対比	対比	対差	対比		
ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg		
全国	137 700	162	222 800	7 700	95	103	7 100	97	100	162	

注：（参考）の「10 a 当たり平均収量対比」とは、10 a 当たり平均収量（原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値）に対する当年産の10 a 当たり収量の比率である（以下の各統計表において同じ。）。

2 小豆（統計表 P 9 参照）

(1) 作付面積

小豆の作付面積は3万700haで、前年産に比べて1,000ha（3%）減少した。

(2) 10aあたり収量

小豆の10aあたり収量は179kgで、前年産に比べて7%上回った。

これは、主産地である北海道等において前年産を上回ったためである。

(3) 収穫量

小豆の収穫量は5万4,900tで、前年産に比べて2,100t（4%）増加した。

これは、作付面積が前年産に比べて減少したものの、10aあたり収量が前年産を上回ったためである。

図4 小豆の作付面積及び収穫量の推移

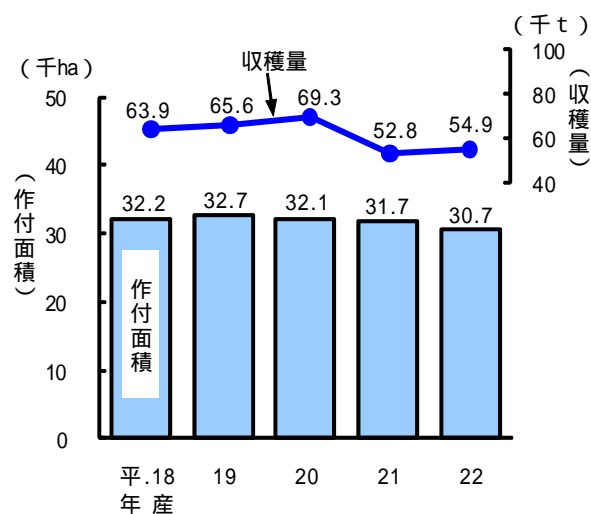


図5 小豆の都道府県別収穫量割合

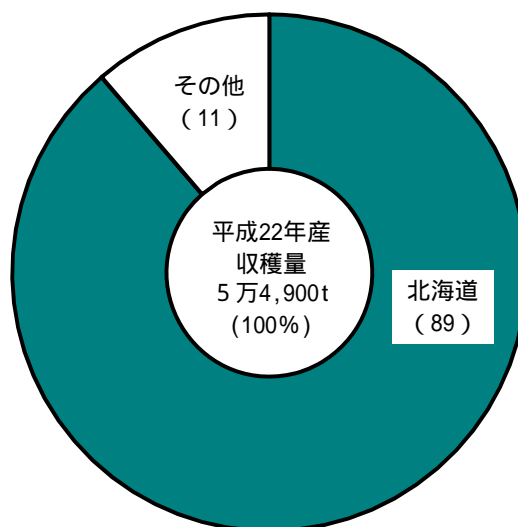


表2 平成22年産小豆の作付面積、10aあたり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a あたり 収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10a あたり 収量	収穫量		10aあたり 平均収量 対	10aあたり 平均収量	
				対差	対比	対比	対差	対比			
全 国	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
全 国	30 700	179	54 900	1 000	97	107	2 100	104	90	200	
うち北海道	23 200	210	48 700	300	99	106	2 200	105	88	239	

3 いんげん（統計表P9参照）

(1) 作付面積

いんげんの作付面積は1万1,600haで、前年産に比べて400ha（4%）増加した。

(2) 10a当たり収量

いんげんの10a当たり収量は190kgで、前年産に比べて34%上回った。

これは、主産地である北海道において、作柄が悪かった前年産を上回ったためである。

(3) 収穫量

いんげんの収穫量は2万2,000tで、前年産に比べて6,100t（38%）増加した。

これは、作付面積が前年産に比べて増加したことに加えて、10a当たり収量が前年産を上回ったためである。

図6 いんげんの作付面積及び収穫量の推移

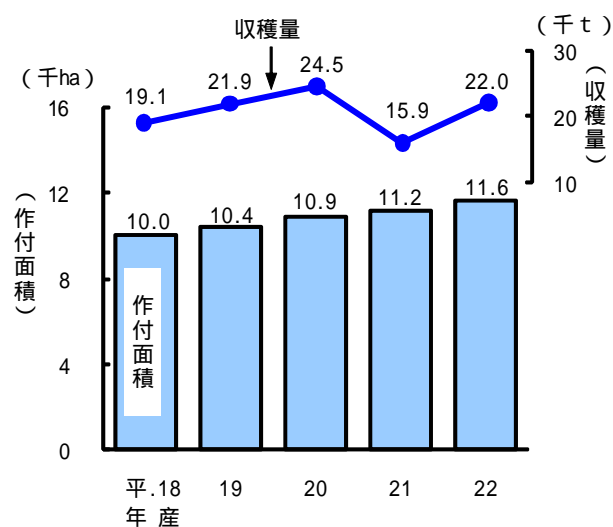


図7 いんげんの都道府県別収穫量割合

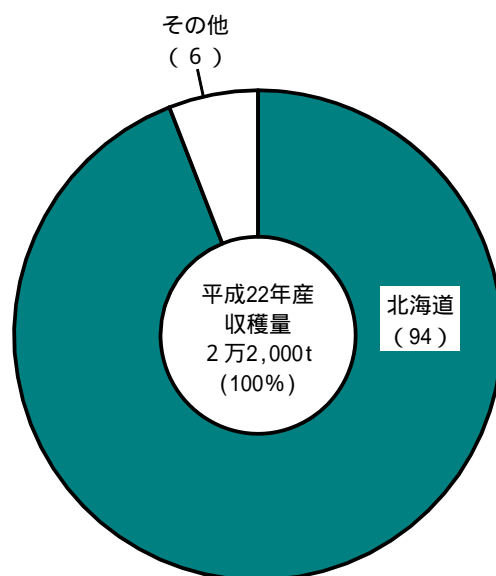


表3 平成22年産いんげんの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10a 当たり 収量		収穫量		10a 当たり 平均収量 対比	10a 当たり 平均収量
				対差	対比	対比	対比	対差	対比		
ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg		
全 国	11 600	190	22 000	400	104	134	6 100	138	90	212	
うち北海道	10 800	192	20 700	600	106	132	5 800	139	88	219	

4 らっかせい(統計表P9参照)

(1) 作付面積

らっかせいの作付面積は7,720haで、前年産に比べて150ha(2%)減少した。

(2) 10a当たり収量

らっかせいの10a当たり収量は210kgで、前年産に比べて19%下回った。

これは、茨城県及び千葉県において、7月下旬から8月下旬までの少雨の影響等により、空さやの発生が多かったこと等による。

(3) 収穫量

らっかせいの収穫量は1万6,200tで、前年産に比べて4,100t(20%)減少した。

これは、作付面積が前年産に比べて減少したことに加えて、10a当たり収量が前年産を下回ったためである。

図8 らっかせいの作付面積及び収穫量の推移

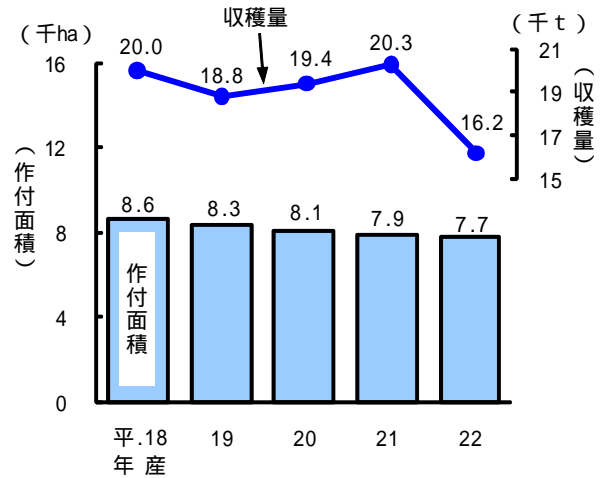


図9 らっかせいの都道府県別収穫量割合

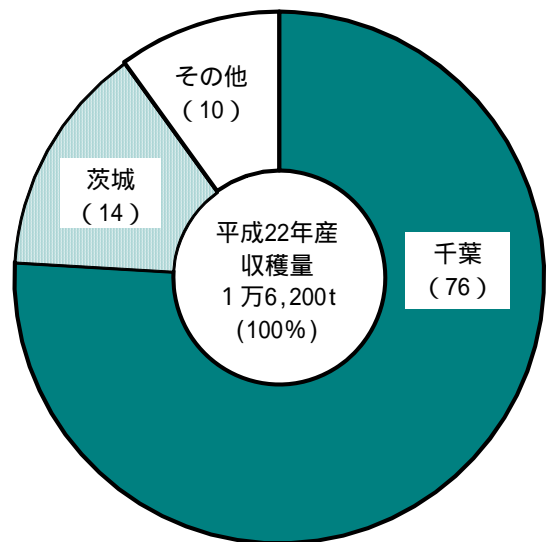


表4 平成22年産らっかせいの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10a 当たり 収量		収穫量		10a 当たり 平均収量 対比	10a 当たり 平均収量
				対差	対比	対比	対比	対差	対比		
ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg		
全 国	7 720	210	16 200	150	98	81	4 100	80	88	240	
うち 茨城	915	250	2 290	29	103	77	590	80	84	298	
千葉	5 690	216	12 300	100	98	82	3 000	80	89	244	

【統計表】

統計表一覧

1	大豆	-----	8
2	小豆	-----	9
3	いんげん	-----	9
4	らっかせい	-----	9

利用上の注意

- 1 統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがある。

原 数		6 桁 (10万)	5 桁 (万)	4 桁 (1 000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数 (下から)		2 桁		1 桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前(原数)	123 456	12 345	1 234	123
	四捨五入した数値(統計数値)	123 500	12 300	1 230	123

- 2 表中に用いた記号は以下のとおりである。
- 「0」：単位に満たないもの(例：0.4ha 0ha)
 - 「-」：事実のないもの
 - 「...」：事実不詳又は調査を欠くもの
 - 「 」：負数又は減少したもの

1 大豆

全国農業地域 ・ 都道府県	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10 a 当 たり 平 均 収 量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
全 国 (全国農業地域)	137 700	162	222 800	7 700	95	103	7 100	97	100	162	
北 海 道	24 400	234	57 100	100	100	118	8 600	118	102	230	
東 北 道	113 200	146	165 700	7 700	94	97	15 700	91	99	147	
東 北 道	37 700	134	50 400	3 900	91	98	6 600	88	96	140	
北 陸 道	14 600	138	20 100	800	95	88	4 100	83	96	144	
関 東 道	13 500	119	16 100	900	94	72	7 600	68	72	166	
東 山 海 道	11 100	160	17 800	400	104	174	7 920	180	117	137	
近 畿 道	9 020	129	11 600	20	100	93	900	93	92	140	
中 国 道	5 530	110	6 080	430	93	83	1 860	77	87	127	
四 国 道	707	143	1 010	138	84	104	160	86	113	127	
九 州 道	21 100	202	42 700	1 900	92	103	2 300	95	124	163	
沖 縄 県	1	45	0	1	-	-	0	-	
(都 道 府 県)											
北 海 道	24 400	234	57 100	100	100	118	8 600	118	102	230	
青 森 県	4 320	142	6 130	560	89	117	230	104	104	136	
岩 手 県	4 420	112	4 950	260	94	91	810	86	97	116	
宮 城 県	11 100	163	18 100	400	97	104	0	100	113	144	
秋 田 県	8 420	112	9 430	1 680	83	88	3 370	74	73	153	
山 形 県	6 580	129	8 490	670	91	96	1 300	87	95	136	
福 島 県	2 880	113	3 250	310	90	77	1 410	70	84	135	
茨 城 県	4 440	106	4 710	290	94	71	2 390	66	69	153	
栃 木 県	4 360	138	6 020	470	90	71	3 350	64	73	189	
群 馬 県	378	124	469	26	94	71	234	67	73	170	
埼 玉 県	707	73	516	36	95	42	764	40	46	159	
千 葉 県	900	103	927	94	91	79	363	72	79	130	
東 京 都	5	122	6	1	83	101	1	86	100	122	
神 奈 川 県	31	175	54	9	78	101	15	78	111	157	
新 潟 県	6 670	146	9 740	470	93	93	1 460	87	96	152	
富 山 県	4 890	140	6 850	190	96	83	1 740	80	97	144	
石 川 県	1 640	116	1 900	40	98	85	390	83	91	127	
福 井 県	1 430	112	1 600	60	96	81	470	77	89	126	
山 梨 県	282	104	293	33	90	79	120	71	81	129	
長 野 県	2 370	131	3 100	10	100	89	370	89	78	169	
岐 阜 県	2 660	166	4 420	30	99	189	2 050	186	118	141	
静 岡 県	369	91	336	14	96	87	66	84	80	114	
愛 知 県	4 220	166	7 020	50	99	187	3 230	185	124	134	
三 重 県	3 840	156	5 990	480	114	158	2 670	180	111	140	
滋 賀 県	5 500	151	8 310	70	101	98	50	99	101	150	
京 都 府	509	79	403	20	96	74	165	71	76	104	
大 阪 府	34	122	41	27	56	95	37	53	96	127	
兵 庫 県	2 720	90	2 450	50	102	77	670	79	71	126	
和 歌 山 県	207	139	288	14	94	96	32	90	95	147	
鳥 取 県	56	113	63	27	67	94	37	63	95	119	
島 根 県	917	135	1 240	66	93	94	180	87	88	154	
岡 山 県	1 070	122	1 310	90	92	111	30	102	104	117	
広 島 県	1 900	94	1 790	220	90	68	1 140	61	75	125	
山 口 県	847	107	906	5	99	79	254	78	80	133	
徳 島 県	791	105	832	52	94	77	318	72	95	110	
香 川 県	96	86	83	41	70	82	61	58	74	117	
愛 媛 県	143	115	165	37	79	90	66	71	91	127	
高 知 県	329	172	566	22	94	105	10	98	119	145	
福 岡 県	139	141	196	38	79	113	25	89	158	89	
佐 賀 県	7 900	204	16 100	130	98	110	1 200	108	124	165	
長 崎 県	7 620	232	17 700	1 220	86	97	3 300	84	124	187	
熊 本 県	509	172	875	25	95	117	91	112	130	132	
大 分 県	2 550	177	4 510	350	88	98	710	86	117	151	
宮 崎 県	1 900	128	2 430	120	94	121	290	114	128	100	
鹿 児 島 県	301	170	512	32	90	102	44	92	137	124	
沖 縄 県	308	191	588	15	95	141	152	135	147	130	
沖 縄 県	1	45	0	1	-	-	0	-	

注：1 (参考)の「10a当たり平均収量対比」とは、10a当たり平均収量(原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値)に対する当年産の10a当たり収量の比率である(以下の各統計表において同じ。)

2 全国、都府県及び全国農業地域別(以下「地域別」という。)の10a当たり平均収量は、各都府県の10a当たり平均収量に当年産の作付面積を乗じて求めた平均収量を地域別に積み上げ、当年産の地域別作付面積で除して算出している(以下の各統計表において同じ。)

2 小豆

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収穫量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当たり 収 量	収 穫 量		10 a 当たり 平均収量 対 比	10 a 当たり 平均収量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg		
全 国	30 700	179	54 900	1 000	97	107	2 100	104	90	200	
うち北海道	23 200	210	48 700	300	99	106	2 200	105	88	239	
岩手	548	69	378	51	91	95	59	86	96	72	
滋賀	68	78	53	10	87	113	1	98	110	71	
京都	593	49	291	75	89	94	59	83	84	58	
兵庫	673	81	545	42	94	150	159	141	123	66	

3 いんげん

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収穫量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当たり 収 量	収 穫 量		10 a 当たり 平均収量 対 比	10 a 当たり 平均収量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg		
全 国	11 600	190	22 000	400	104	134	6 100	138	90	212	
うち北海道	10 800	192	20 700	600	106	132	5 800	139	88	219	
うち金時	7 450	177	13 200	520	108	138	4 330	149	91	195	
手 亡	2 470	231	5 710	50	102	140	1 720	143	86	270	

4 らっかせい

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収穫量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当たり 収 量	収 穫 量		10 a 当たり 平均収量 対 比	10 a 当たり 平均収量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg		
全 国	7 720	210	16 200	150	98	81	4 100	80	88	240	
うち茨城	915	250	2 290	29	103	77	590	80	84	298	
千 葉	5 690	216	12 300	100	98	82	3 000	80	89	244	

【調査の概要】

1 調査の目的

この調査は、作物統計調査及び特定作物統計調査の作況調査として実施したものであり、豆類の生産に関する実態を明らかにし、「食料・農業・農村基本計画」における生産数量目標の策定及び目標達成に向けた生産指導・達成状況検証のための資料、「畑作物共済事業」における共済基準収量算定及び農業共済組合連合会当初評価高の審査・認定のための資料、小豆、いんげん及びらっかせいの関税割当数量の算定のための資料等とすることを目的としている。

2 調査の対象

(1) 調査の範囲

ア 大豆

全国の各都道府県を対象に調査を行っている。

イ 小豆、いんげん及びらっかせい

10a 当たり収量及び収穫量については、主産県（前年の作付面積が全国の作付面積のおおむね80%を占めるまでの都道府県及び畑作物共済事業実施都道府県）を対象に調査を実施しており、3年周期で全国調査を実施している。

平成22年産については、主産県を対象に調査を実施した。

なお、作付面積については、毎年全国の各都道府県を対象に調査を実施している。

(2) 調査対象の選定

ア 関係団体調査

調査対象作物の集荷を行っている全ての農協等の関係団体とした。（全数調査）

イ 標本経営体調査

2005年農林業センサスにおいて、調査対象作物を販売目的で作付けした農林業経営体から無作為に抽出（母集団名簿を作付面積順に並べ替えを行い、設定した面積規模別の標本数に応じて等間隔に抽出する方法（系統抽出法）により抽出）した。

（標本調査）

(3) 調査対象数

	関係団体調査			標本経営体調査				
	団体数	有効回収数	有効回収率 = / %	母集団経営体数	標本数	抽出率 = / %	有効回収数	有効回収率 = / %
大豆	団体 675	団体 579	% 85.8	経営体 154,802	経営体 5,536	% 3.6	経営体 2,336	% 42.2
小豆	127	113	89.0	21,908	1,163	5.3	553	47.5
いんげん	73	52	71.2	2,966	177	6.0	97	54.8
らっかせい	12	10	83.3	8,471	428	5.1	172	40.2

注：「有効回収数」は、回収があったもののうち、当年産において作付けがなかった経営体等を除いた数である。

3 調査事項

作付面積、10a 当たり収量及び収穫量

4 調査期日
収穫期

5 調査方法

関係団体及び標本経営体に対する往復郵送調査、職員による巡回・情報収集による。

6 集計方法

収穫量は、往復郵送調査結果により算出した10a当たり収量を、必要に応じて巡回・情報収集結果により補完し、作付面積を乗じて算出している。

なお、往復郵送調査結果により算出した10a当たり収量については、調査対象作物について、関係団体を取り扱う数量の割合がおおむね8割以上の場合は団体調査結果を、おおむね8割未満の場合は標本経営体調査結果を採用している。

また、大豆の全国値については、各都道府県の結果を積み上げ集計し、小豆、いんげん及びらっかせいの全国値については、主産県の調査結果から推計している。

7 目標精度

本調査において、目標精度は設定していない。

8 用語の解説

(1) 乾燥子実とは、豆類で食用を目的に未成熟（完熟期以前）で収穫されるもの（えだまめ、さやいんげん等）を除いたものをいう。

また、らっかせいはさやつきのものである。

(2) 収穫量とは、収穫・収納（収穫後、保存又は販売できる状態にして収納舎等に入れること）された一定の基準（品質・規格）以上のものの量をいう。

9 全国農業地域の表章区分は、次のとおりである。

全国農業地域	所属都道府県名
北海道	北海道
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
北陸	新潟、富山、石川、福井
関東・東山	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野
東海	岐阜、静岡、愛知、三重
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国	徳島、香川、愛媛、高知
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島
沖縄	沖縄

10 その他

この資料の数値は概数であり、確定値は平成23年6月刊行予定の『耕地及び作付面積統計』及び平成23年10月刊行予定の『作物統計』に掲載する。

【ホームページ掲載案内】

各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報でご覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果の分野別分類は「作付面積・生産量、家畜の頭数など」、品目別分類は「いも・雑穀・豆」に分類しています。

【関連リンク】

農林水産施策関係ページ：農林水産省 > 基本政策 <http://www.maff.go.jp/j/kanbo/>

食料政策関係ページ：農林水産省 > 食料 <http://www.maff.go.jp/j/soushoku/>

農業生産振興関係ページ：農林水産省 > 生産 <http://www.maff.go.jp/j/seisan/>

— 問合せ先 —

本統計調査結果について
農林水産省 大臣官房統計部
生産流通消費統計課 普通作物統計班
電話：03-3502-5687

農林水産統計全般について
農林水産省 大臣官房統計部
統計企画課 広報普及班
電話：03-6744-2037